

---

## 特 集

---

“学校”にとっての  
地域学校協働本部

## “学校”にとっての 地域学校協働本部

地域学校協働本部の特徴は、次の3つとされています。

- ・コーディネート機能の充実
- ・個別の活動の総合化・ネットワーク化
- ・「支援」から「連携・協働」へ

各地域や学校においては、様々な出会いを生かした教育活動が展開されています。

地域学校協働本部を設置し、地域コーディネーターが活躍する学校や地域では、そうした従来の展開に加えて、より多くの幅広い地域住民等の方々による、継続的な支援が実現しているとの声が多数寄せられています。

多くの学校や地域で類似の取組が行われているかもしれませんが、この仕組みのポイントは、地域学校協働本部のコーディネート機能による総合的で継続的な取組であることです。

学校にとって、地域学校協働本部がどのように機能し、受け止められているのか。令和元年度の地域学校協働本部の実施地区における事例を通してご紹介します。

### A 多様な外部人材の確保と効果的な導入

#### B 教育環境の充実

校庭・花壇等整備

学習環境

#### C 教育活動の充実（教育課程）

小学校

中学校

#### D 放課後等の学習支援

#### E コミュニティスクールとの連携

# A 多様な外部人材の確保と効果的な導入

## 地域の方々に支えられて、教育活動が充実しています

地域学校協働本部の一番の要は、コーディネート機能です。

学校の求めに応じて、学校だけでは発掘できない、またはつながることが困難な外部の多様な人材を、広く地域住民等から発掘し、効果的に学校支援ボランティアとして学校の教育活動につないでいます。

### 地域学校協働本部（地域コーディネーター）

多様な学校支援活動の取組の基盤として、本部や地域コーディネーターが機能しています。

地域学校協働本部（地域コーディネーター）が地域のネットワークでボランティアを確保

江東区・立川市

#### 「地域と学校でワンチーム ～チームやながわ～」 江東区立八名川小学校

「チームやながわ」（地域学校協働本部）は、八名川小学校が江東区のコミュニティ・スクールモデル校となったことをきっかけとして、令和元年度に組織しました。これまでは、既存の保護者や地域団体の連携はみられなかったことから、さらなる学校支援活動の充実に向け、豊富な地域の力を効果的に活用するねらいで本部を設置しました。

現在は事務局にてやながわタウンページ（人材バンク）を作成し、例年以上に地域住民による授業支援が実現しています。

また、平成19年度から活動している「やながわファミリー」が定着させてきた「地域と学校情報の共有のしくみ」である「やながわ新聞」は形を変え、今年度からは学校だよりに「チームやながわ」コーナーとして毎月情報提供ができるようになり大変好評です。

#### Point & Idea

特徴① 地域学校協働本部「チームやながわ」＝各実行部隊のリーダーにより事務局を形成

地域学校協働本部「チームやながわ」

各実行部隊リーダー

- ・学校支援地域本部「やながわファミリー」
- ・ウィークエンドスクール
- ・はなまる教室（土曜・放課後学習教室）
- ・PTA

特徴② 学校支援地域本部「やながわファミリー」でコミュニティづくり

学校支援の基盤ともなる大人同士のつながりが生まれる、学校を拠点とした大人の活動サークル（5団体）の展開、大人同士が知り合い仲良くなることで、八名川の地域として子供を育てる意識が生まれる。

#### Voice



「全校遠足の引率の人数が足りないときや、昔遊び体験の講師を探しているときなど困っているときに、学校のよき相談相手として、地域から人材を探してくださることで、充実した活動ができています。」

#### 「地域学習館（公民館）と連携 ～地域学校協働本部～」 立川市立立川第七中学校・西砂小学校・松中小学校

地域学校コーディネーターは学校と地域の連携・協働を目的として担当しています。地域の拠点である地域学習館（公民館）と連携することにより、地域人材を有効に活用し、より一層の教育活動の充実を目指します。

#### Point & Idea

学校が、市の中心部から離れている等の地理的な課題があり、人材確保に苦労していますが、ボランティア募集の説明会を開催するなど工夫して人材の確保に努め、多様な地域人材の協力が得られています。

#### 活動の例

- 放課後学習の支援員
- 図書ボランティア（図書室整備や読み聞かせなど）
- 環境整備ボランティア（校舎や・花壇など）
- ゲストティーチャー
- 楽器搬送ボランティア（運動会等の学校行事や地域行事など）

今年度は、地域学習館（公民館）運営協議会の会議に出席し、それぞれの活動について情報交換をすることが出来ました。同じ地域で活動する地域人材に詳しい方々と面識を持たせたことにより、より幅広い人材の確保や教育活動の充実について今後の活動につなげていく道筋がつかまりました。

#### Voice



「学校の教育活動や地域の学校に対する期待など、相互の情報交換が密になった。」



「自分のことを大切に思い優しく接してくれる人の存在を実感することを通して、児童は大人に対する信頼感をより高めていった。」

「学内委員会組織と連携 ～学校支援地域本部～」 狛江市立狛江第五小学校

本部の設置やコーディネーター配置以前から、既存のボランティア活動が展開しているという地域と学校も多いと思います。

Point  
&  
idea

狛江第五小学校も、そうした背景の下配置されたコーディネーターを機能させる方向で、校内に委員会組織(A委員会：生活指導、特別活動、研究推進、B委員会：校内、体育的、文化、地域支援)を立ち上げ、地域コーディネーターと担当職員が月1回の打ち合わせを行うことで、学校のニーズを踏まえた多様な活動が展開しています。

活動の例

- クラスサポート(クラスの実態に応じた児童のサポート)
- 長期休業中の飼育動物の餌やり
- 学習支援ボランティア(算数の少人数学級での個別の支援)
- 学習支援事業(昔遊び、戦争体験のおはなし、菊作り、陶芸、米作り、味噌造り、魚食等の特別活動)

Voice

「サポートに入ってくれている地域のボランティアの方達に支えられ、とても助かっている。いつもサポートに入ってもらっているので子供達とも信頼関係ができています。」

多様な外部人材の確保と  
効果的な導入

校外活動に伴うグループ活動を支える  
ボランティア

「校外活動に伴うボランティア ～芝小地域学校協働本部～」 港区立芝小学校

遠足において、動物園内を1、2年生の縦割りグループで活動する計画をしたものの、全グループを見守るためには引率の教員だけでは人数が足りません。こうした時こそ、「地域学校協働本部」であり「地域コーディネーター」です。

Point  
&  
idea

本部を通じて16人のボランティアを確保し、朝のラッシュの時間帯に、駅構内の移動や乗車するための補助等、無事に引率をしました。事前に、グループごとに見たい動物や生き物、行きたい場所のルートを考えて、当日は1年生の意見を取り入れながら2年生がリーダーとなって園内のグループ活動ができました。

Voice

- 「多くのボランティアを集めることができたことで、児童の安全管理にも目が行き届き、少人数のグループ活動の充実を図ることができた。」
- 「多くの保護者に、学校外での児童の活動を見ていただくことができた。」



上野動物園での活動

中学校における  
ボランティア活動関係者の情報共有

「コーディネーターとボランティアの情報共有  
～世田谷中学校学校支援地域本部～」

世田谷区立世田谷中学校

今年度で5年目を迎えた学校支援地域本部、活動内容も学校のニーズに合わせて少しずつ変化しながら、地域の方々の協力を得て、様々な活動が展開しています。

活動の例

- 学校行事等の受付(セーフティー教室、道徳授業地区公開講座、PTA総会等)
- 検定対策講習の生徒受付(数検対策講座、英検対策講座)
- 各種検定試験の監督(数検、英検、漢検、日本語検定)
- 地域の方への学校だよりや各種案内の配布
- フラワーサークル～花いっぱい緑いっぱいプロジェクト～
- 学芸発表会参加者の自転車整理

その円滑な展開のポイントは、学校支援コーディネーターとボランティアとの情報共有です。

Point  
&  
idea

まず月1回、コーディネーターと事務局で会議を開き、打ち合わせを行い互いの意見の疎通を図っています。ボランティア(協力員)の登録を1年間として、毎年名簿を更新し、年度の終わりには、コーディネーターと協力員、事務局で会議を開き、活動に対する意見を聞く会を設け、課題や成果を共有し、次年度計画に役立てています。

Voice

- 「協力員が学校行事の受付をしてくれるので、保護者も安心して学校行事に参加できる。」
- 「協力員が検定試験の監督をしてくれるので、教員が土曜日や日曜日に出勤しなくても良く大変助かる。」

# ボランティアの募集・確保

「人材の確保」は、学校からの要望の多い支援活動のひとつです。そうしたボランティアの募集や確保に関する工夫にも本部や地域コーディネーターが一役買っています。

参加しやすさを念頭に置いた  
ボランティアの募集・確保

板橋区・清瀬市

## 「SNSとQRコードを使った保護者ボランティアの募集

～板橋第十小学校学校支援地域本部～

板橋区立板橋第十小学校

従来からの図書ボランティアや体育引率ボランティア等に加え、校舎全面改築工事の影響による安全のための見守りなど、ボランティアの新規募集システムの構築が必要となりました。そこで、授業支援、出前授業など学習活動の充実も視野に入れた新規のボランティア募集システムを、本部として構築しました。

Point  
&  
idea

年間の登録制ではなく、空いた時間に気軽に保護者が参加できるシステムとし、「みんなが知っている活動」、「いつでも誰でも参加できる活動」となるように改善しました。学校からボランティア依頼があった場合、日時や内容によってボランティア可能な保護者がSNSやQRコードから参加意志を伝えるしくみとしています。

Voice

- 「体育や水泳は校外の施設を借りて実施しているため、児童の安全管理が徹底できるようになった。担任+複数の大人で見守ることができるため、学校として大変ありがたい。」
- 「体育の引率ボランティアが拡張し、生活科見学や社会科見学の引率ボランティアも行っていただけるようになった。保護者ボランティアからも「学校での学習の様子が分かり、参加してよかった。」と高い評価をいただいている。」
- 「昨年度までは学習支援ボランティアが必要になった時、各担任が人材を探していたが、ボランティアシステムが構築されたため、教員の働き方改革にもつながっている。」

## 「ワンデーサポート活動 ～二中学校支援本部～」 清瀬市立清瀬第二中学校

中学校が求めている人材や支援をわかりやすく伝える、ボランティアの立場に立って参加しやすい環境づくりが必要と考えて、新たなしくみを作りました。

Point  
&  
idea

様々なボランティア活動の中から“その日その時間、できる人ができる時に参加してもらう”体制をつくることで、ボランティアへ参加しやすくしています。年度初めに、“学期”“月”“日”“時間”毎など、なるべく細かく分けて活動内容を明記した「ワンデーサポート活動計画表」を作成し、ボランティアを募集します。活動日が近づいてきたら活動の詳細を、その活動のボランティア希望者に配布します。

コーディネーターは、「教員とのコミュニケーションを密にすることで学校には今何が必要なのかを理解し、「生徒の自主性を尊重し、手伝いすぎず、縁の下の力持ちに徹する」という考えを根本に、ボランティアを必要とする活動内容を吟味している」といいます。

Voice

- 「学校行事の受付業務など今迄は教員が行っていた事をボランティアが担ってくれるなど、教員の負担軽減につながって助かる。」
- 「仕事をしている保護者にも都合をつけてもらいやすく、多くの方に参加していただけた。自分の子供の学校でもワンデーサポートのような体制があると良いと思った。」

ワンデーサポート活動計画表の例

多様な外部人材の確保と  
効果的な導入

# B 教育環境の充実

子供たちの学習意欲が向上し、教員の負担軽減にもなっています

地域学校協働活動の柱でもある学校支援活動、その中でも教育環境の整備や充実はいくつかのボランティア活動として、「負担軽減になっている」と教員からも声が寄せられている取組です。

## 学校の施設（花壇や校庭）

安全を確保するとともに、子供たち自身が地域とのつながりを実感する機会を提供しています。

ボランティア参加による教育環境の整備

葛飾区・あきる野市

### 「地域と協働した花壇整備 ～北野小学校学校地域応援団～」 葛飾区立北野小学校

PTA 活動として行っていた子供の安全を守るための活動を、学校地域応援団が継承し、現在では犯罪等を未然に予防し、子供たちが安心・安全に遊べる公園を作るため、近隣にある公園の花壇を整備するなどを実施しています。

#### Point & Idea

地域コーディネーターをはじめとする地域住民や保護者から構成される事務局を組織化し、地域コーディネーターに加えて事務局も活動の企画や調整等に参加することで、学校地域応援団の運営体制を強化しています。

環境整備だけではなく、「理科」や「総合的な学習の時間」において3年生が学校地域応援団と一緒に近隣公園の花壇整備や土曜授業日に1・2年生と保護者を対象にした安全教育の講演会「がっこうのまわりのあんぜん」も実施しています。



地域住民と児童による花壇整備の様子

#### Voice

「地域の方と協働して花壇整備をすることにより、学校や近所で地域の方と出会うと挨拶を交わしたり、名前を呼び合えたりする関係をつくることができました。」

「理科「植物を育てよう」の学習で、学校地域応援団の方と一緒に近隣公園の花壇整備を行うことで、花の植え方や育ち方についての知識と経験が結び付き、授業への理解が深まった。」



安全教育講演会

### 「地域交流を目的とした校庭整備 ～学校支援地域本部～」 あきる野市立屋城小学校

課題は、学校と地域（町内会や自治会）のつながりが希薄なこと、芝生化した校庭の夏季休業日中の管理でした。コーディネーターが中心となり、保護者や地域に参加を呼びかけ、青少年健全育成地区委員会（以下「青少健」）やPTA本部、地域協力者の協力を得ながら、夏休み期間中に2回校庭整備を実施しました。児童や地域のサッカーチームの参加もあり、総勢130名を超える参加人数となりました。

#### Point & Idea

事前に、地域の町内会長や自治会長を集めた説明会を開き、事業の趣旨を説明し賛同を得たうえで、活動への参加を求めるチラシを回覧してもらいました。

当日は、コーディネーターが進行役を努め、校長、青少健会長、PTA会長、自治会長、地域協力者からの挨拶で作業を開始しました。



地域住民による校庭整備の様子

#### Voice

「毎年、2学期の始業式前に校庭整備の時間がかなり取られていて、学習準備が思うように進められなかったが、今年度は時間を十分に取ることができ、とてもありがたかった。」

「学校、家庭、地域の交流ができたことがとても良かった。町内会・自治会からの参加は少なかったのですが、今後はさらに広がっていくといい。」

## 学習環境の整備

ボランティアによる学習環境の整備が、  
児童の学習意欲を高めることにつながっています。

学習環境

江戸川区・武蔵野市

### 「本好きな子どもを育てよう！ ～各区立小学校 学校応援団～」 江戸川区立小学校(70校)

「できる時に、できることを」という学校応援団の理念を基に、各学校応援団ボランティアが読み聞かせや学校図書館の整備等の活動を主体的に企画・運営しています。

Point  
&  
idea

#### <読み聞かせ活動>

文部科学省教育課程特例校の指定を受け実施している「読書科」の教科指導と相互連携した活動を実施しています。

児童の発達段階に応じた選書  
学校教育活動とのリンク（季節に応じた本、担任教諭や栄養士と協議して選んだ本）

#### <学校図書館整備>

本を読みたいという意欲を喚起するため、季節や年中行事、教科書の教材に合わせた装飾や掲示等を行っています。

蔵書配列の工夫  
（日常の読書から調べ学習への対応、児童の身長や内容に応じた蔵書整備等）

Voice

- 「読み聞かせ活動で使用した本を借りる、読み方の真似をする等、児童の読書の楽しみ方やジャンルの幅が広がっている。また、低学年の児童が休み時間に読書をするようになる等、全体的に読書量が増加した。」
- 「学校図書館の環境整備を継続的に行うことにより、児童が快適に本に親しむことができる環境となり、図書館が意欲的に読書や調べ学習ができる場に変化している。その結果、児童の学習意欲が向上している。」

教育環境の充実

### 「寄り添いが必要な児童への対応 ～開かれた学校づくり協議会～」 武蔵野市立第一小学校

教師1名では見守ることが困難な児童、授業に集中できない児童等への対応について協力の要請があり、廊下で待機したり、時には教室に入って見守りを行ったりしました。

Point  
&  
idea

当初は、地域のボランティアで対応しましたが、学童クラブ、児童館などで指導員の経験のある方(計18名)の力を結集して対応し、2か月後には児童に変化がみられました。

ボランティア間で確認した基本事項のまとめ

- ・児童が特定されることから、知り得た個人情報は他に話さない。
- ・必要以上に手を出さない。
- ・学校及び教師と密な連絡調整を行う。
- ・協力体制を確立する。

Voice

- 「担任一人では、クラス全体と寄り添いが必要な児童の支援や指導を行うことが難しいため、地域の方が配慮を要する児童に一对一で対応していただけることで、担任は安心して授業をすすめることができた。」
- 「自分のことを大切に思い優しく接してくれる人の存在を実感することを通して、児童は大人に対する信頼感をより高めていった。」

# 新1年生 学校生活サポート

新1年生のサポートが、子供たちの円滑な学校生活を支え、さらには学校と家庭(保護者)、そして地域のつながりを強くしています。

小学1年生支援

大田区・小平市

## 「新1年生にこここサポート ～池雪いきいき応援隊～」 大田区立池雪小学校

新学期、新1年生が不安なく学校生活を送れるようサポートが行われています。

### Point & idea

入学式の翌日から4月末まで、卒業生の保護者、近隣の方にご協力いただき、新1年生に対して次のサポートを実施しています。

#### 【給食サポート】

給食の配膳や片付けがスムーズにできるようになる手伝いをする。



#### 【下校準備】

集団下校の準備、ルート別の指定場所に分かれ点呼、人数確認を行い出発。

#### 【下校サポート】

先生と一緒に引率し、集団下校する子供たちの安全を見守る。



いずれのサポートも、児童が自分でできるようになることをねらいとしています。はじめは率先して手伝いを行います。徐々に声掛け、見守りに移行していきます。

### Voice

☺ 「給食サポート：入学したばかりの何も分からない新1年生の給食の準備、片付けを手伝っていただき大変助かった。配膳の仕方や受け取り方など、慣れるまではトラブルが多く、たくさん目で見てもらうことでトラブルが減ったと思う。」

☺ 「下校サポート：帰り支度や教員だけでは対応できない、児童を下校コースに分けて別の教室に移動するときなど、サポートがあり大変助かった。どちらのサポートも教員の負担軽減だけでなく、児童や保護者の不安解消が図られ、安心した学校生活のスタートにつながったと思う。」

## 「新1年生向け体験教室 ～プレ1年生～」

### 小平市立小平第六小学校

学校からの要望もあり、新1年生の保護者説明会で、本部として地域や保護者の先輩としての立場から、新1年生の保護者の不安を取り除くことができるような場を、平成17年度から設けてきました。

### Point & idea

新1年生となる子供向けの体験学習の実施、保護者に子供を入学させるにあたっての心構えを説明し、疑問に答えることで入学後の生活に対する不安を取り除き、スムーズな小学校生活を送るための手助けをしています。あわせて、保護者も参加可能な学校内のボランティア活動についても紹介しています。

### Voice

☺ 「保護者の先輩、地域住民として関わり合いのある立場で、新入生の保護者向けにお話をいただいているため、学校側として言いにくいことなどがあってもはっきりわかりやすく伝えてもらっている。」

☺ 「プレ1年生に限らず、夏休みや日頃の取組を通して学校を支援してくれるコーディネーターの存在は欠かせないものになっている。コミュニティ・スクールとしてこのような取組に対する協力体制が広がることでさらに豊かな可能性に結びついていくと思われる。」



# 教育活動の充実(小学校・教育課程)

おかげで効果の高い授業が展開できています

地域学校協働本部によるコーディネートには、学校の周辺(通学路、校庭等)や校内(図書館等)の環境整備にとどまらず、授業づくりの支援となっている取組もあります。

## 教育課程への支援の実際

文京区・武蔵野市

### 「福祉教育(高齢者理解)の実践 ～駒本小学校支援地域本部～」

文京区立駒本小学校

4年生の総合的な学習の時間において、例年「福祉(視覚障害者・聴覚障害者・高齢者理解等)」を取り上げています。その具体化に欠かせない外部講師となる方や団体とのコーディネートも、地域コーディネーターが行って来ました。

#### Point & Idea

地域コーディネーターが年間教育計画立案段階から関わり、担任の意向や児童の希望に沿った講師を選定し、効果的に授業づくりにつなげています。

今年度の目標は、「高齢者理解を深め、学びを生かし主体的な行動がとれること」となり、文京区社会福祉協議会等の協力で、高齢者の身体的・社会的・精神的な特徴を学習しました。また、高齢者疑似体験等を通じて、高齢者との関わりについて児童が考える機会をつくりました。学習発表会(11月)では、校内及び地域からの参加も得て、成果を発表しました。



高齢者疑似体験

#### Voice

「コーディネーターが、普段から児童が興味関心を持ちそうな事柄を予測して多様な人材とつながりを持っていることから、短い準備時間で効果の高い授業が展開できている。」

「「福祉」のみならず、外国語活動、校外学習、いのちと心の授業、薬物乱用防止授業等、外部団体との交渉の多くを地域コーディネーターが担い、教材準備等のボランティアによる支援もあることから、教職員全体の時間外勤務時間が削減されている。」



児童が企画した特養ホームでの交流会

教育活動の充実(教育課程)

### 「外国語学習ボランティア ～開かれた学校づくり協議会～」

武蔵野市立大野田小学校

外国語活動の本格実施に向けて、平成30年度1学期に学校から地域で英会話ができる方について地域コーディネーターに相談があり、2学期からは学習ボランティアによる授業支援を実施しています。

#### Point & Idea

外国語学習ボランティアについては、地域コーディネーターが中心となって人材発掘や協力依頼をしています。3年生以上の授業で、教師一人では指導しきれない英語の発音や聞き取りの支援、コミュニケーションを図る上で欠かせないアイコンタクトや声の大きさなどについて、外国語が堪能なボランティアにアドバイスをもらっています。

#### Voice

「英語の技能(発音)に不安がある教員にとって、ALTだけでなく外国語学習ボランティアにフォローしてもらうことで授業の質や効果を上げることができた」

「外国語の発音、表現の仕方などを教えていただくことで、児童が自信をもって外国語でのコミュニケーションに取り組むことができた。」

## 「地域人材を活かしたキャリア学習 ～学校支援地域本部～」 品川区立城南小学校

「児童がいろいろな職種の実際の仕事内容を聞く機会を作りたいが、教員だけで探すのは難しい」という声を受けて、学校地域コーディネーターが地域から多様な職種の方をコーディネートしています。

### Point & Idea

地域人材を講師として招聘し、6年生を対象に「仕事」について話をさせていただく「ドリームジョブ」という授業です。企業との連絡・調整や新規の申込は、学校地域コーディネーターが担っています。児童にとって身近な地元・近隣の企業から社員の方を派遣していただき、小グループで直接大人と話す貴重な機会となっています。



話を聞く様子①

### Voice

「『ドリームジョブ』の授業を通して、子供たちは、『働くことの楽しさややりがい』を見出している。事後に行うワークシートへの記入内容を見ても、『仕事って大変だけど、楽しそう』『スピーカーのように、イキイキとした大人になりたい』など将来に対し前向きな気持ちを持ち、具体的なロールモデルを提示できていると感じる。」

「始めて4年目の取り組み。今では外部人材との連絡調整は、地域をよく知るコーディネーターに任せることができ、助かっている。コーディネーターが直接足を運んでくれるので、協力してくださる企業との関係も良好である。児童にとって、『社会人になる第一歩』の取り組みとして、今後も続けていきたい。」



話を聞く様子②

## 「地域安全マップ作成支援 ～三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会支援部～」 三鷹市立第七小学校

4年生の総合的な学習の時間で、フィールドワークを伴う地域安全マップの作成を行っています。コミュニティ・スクール委員会学習ボランティア担当と学校とが連携することで、効率的にフィールドワークの際のボランティアを確保しています。

### Point & Idea

ボランティア対象のフィールドワークの打合せでは、ねらいや引率中の具体的な注意点や子供へのアドバイス等を確認し実施し、当日はグループごとに日々の生活の中で危険な点などを調べました。児童たちは、フィールドワークと調べ学習の成果を模造紙にまとめ、地域や保護者に向けて学校公開で発表しました。

### Voice

「青少対・交通対・PTA・教職員地域パトロールの際には、児童が作成した地図をもとに、パトロールを行った。大人の感覚では気が付かないこともあり、大変役立ったという声をいただいた。」

「関係団体との連絡調整等をコーディネーターが担当することで、担任の負担軽減が図られた。」



地域安全マップづくり①



地域安全マップづくり②

「オリパラ朝会及び2年生体育（ラグビー体験）  
～地域連携担当教員・VCの連携～」

町田市立町田第一小学校

「ラグビーについて知り、体験することで、運動に親しむ態度を養う。自分たちの地域にあるスポーツチームを知ること、地域への愛着をもつ」というねらいで地域連携担当教員が地元チームと交渉し、その結果を受けて、普段から外部人材のコーディネートを行っている学校支援ボランティアコーディネーター（VC）と連携して教育活動としての具体化を図りました。

Point & idea

具体化した教育活動は、全校対象の朝会と2年生の体育でのラグビー体験でした。担当VCは、実施決定後、地元ラグビーチーム「キャノンイーグルス」担当者と連絡を取り、事前準備、当日行程等確認、当日は駐車場確保、控室確保、飲料水準備、授業実施対応、写真撮影等、臨機応変に対応し、授業後は児童からのお礼の手紙の送付など、適宜担当教員へ連絡報告を行いながら実施しました。



VCと地域連携教員との打合せの様子

Voice

- ☺ 「本物に触れる、本物を見ることで、ラグビーのみならずスポーツへの興味や関心が高まった。」
- ☺ 「体験学習では、体を動かすことが苦手な児童や走るのが遅い児童が、方法を教えてもらうことにより、苦手意識克服とスポーツの楽しさを学ぶことができた。また、教員は、児童の体力や能力に合った指導法を目の当たりにし、教員として指導法などとても勉強になった。」



ラグビー体験の様子

「米から学ぼう ～平井小応援団～」

日の出町立平井小学校

本校4年生、総合的な学習の時間の「米作り体験」を実現するための様々な地元の方々や支援ボランティアとの調整を、学校支援コーディネーターが担っています。

Point & idea

「食」をテーマにしながら地域の方との交流を目指した教育活動「米作り体験」を「応援団」の支援で毎年行っています。5月代掻き体験、6月田植え体験、9月案山子づくり、10月稲刈り体験、11月脱穀体験、そして最後にお米を使った料理体験と、様々な体験に伴う日時調整や用具等の準備を学校支援コーディネーターが調整を図っています。子供たちは、米について調べながら、実際に米作り体験を行うことで食について理解を深めています。

Voice

- ☺ 「支援コーディネーターに本当に助けられた。支援コーディネーターがいることで、この活動を続けていけると思う。」
- ☺ 「教員では分からないことを地域の方が丁寧に教えてくださり助かる。」



田植え体験



稲刈り体験



# 教育活動の充実(中学校・教育課程)

児童・生徒の学習意欲が高まり、教師自身の学びにもなっています

キャリア教育

墨田区・稲城市

## 「ハローワーク ～学校支援ネットワーク本部～」

## 墨田区立錦糸中学校

中学校で、生徒が希望する職業についての講師を探るとき、学校関係者が知っている人材だけでは見つからないことがあります。墨田区ではその機能を学校支援ネットワーク本部が担っています。

### Point & Idea

3年間の生き方学習のプランの一環として授業「ハローワーク」を実施しています。この取組の中心となるのが、生徒の希望する多様な職業人に直接話を聞く「職業講話」です。

今年度は、①JICA海外協力隊員 ②看護師 ③保育士 ④金融業 ⑤ITサービス業 ⑥消防署 ⑦デザイン研究室 ⑧俳優 ⑨投資家 ⑩飲食業 ⑪金属会社 ⑫デザイナー ⑬文化財調査コンサルタント ⑭獣医 ⑮コンビニオーナーの15名の職種の講師をお願いしました。

基本は学校で地元の方に依頼しますが、確保できなかった講師については、墨田区教育委員会の学校支援ネットワーク本部が推薦しています。



全体集会での講師紹介

### Voice

「講師の方が「働くことの大切さ」を親身に丁寧に話して下さい、生徒の学習意欲が高まりました。」

「直前の依頼などもあり、ご迷惑をおかけしたが、学校支援ネットワーク本部がきちんと対応して下さい、充実した授業になった。」



グループに分かれて講話を聞く

## 「職場体験 ～三中ブロック～」

## 稲城市立稲城第三中学校

生徒数の増加に伴い、必要な数の職場体験先の確保が難しくなってきました。学校支援コンシェルジュ(地域コーディネーター)が地域の人脈を活用して、新規の事業所の開拓をしています。

### Point & Idea

あらゆる場面で柔軟に人的支援・後方支援をしていただくため、日頃から学校の様子を学校支援コンシェルジュに伝え、来校していただく機会を増やしています。

中学2年生で実施される学校行事の職場体験においては、学校支援コンシェルジュが体験先の開拓・確保し、体験先と学校との連絡調整をしています。担当教員との打ち合わせを密に行い、体験先に関する情報の共有など、互いの活動を補完しています。

### Voice

「新規事業所の開拓に当たり、地域の人脈を活用して開拓していただいたので、教員が電話をかけて探すなどの労力と時間を省くことが出来た。」

「教員の異動が多い中でも、学校と地域の間に入って継続的に連絡や調整をしていただけたので、学校での取り組みがスムーズに進められ助かった。」

「プロから学ぶ ～羽村市学校支援地域本部～」  
 羽村市立羽村第二中学校・富士見小学校・栄小学校・松林小学校

羽村市小中一貫教育基本計画の取組の一つに、人間学（キャリア教育）があり、小学5年生から中学3年生まで、ゲストティーチャーを招いてのキャリア教育に取り組んでいます。

Point & Idea

「プロから学ぶ」を設定し、専門職（プロ）からの講話を聴き、職業や働くことについて考えをもたせる学習です。しかし、ゲストティーチャーとなる人材を学校の教員だけで探すのが困難であり、コーディネーターが地域での人脈を生かし、ゲストティーチャーを探す役割を担っています。コーディネーターは授業の内容に合わせ、教員のねらいに沿ったゲストティーチャーを探すとともに、日程調整を行うなど、教員の負担軽減を図りながら、地域と学校が連携した取組となるよう努めています。



プロから学ぶ

Voice

「「プロから学ぶ」のゲストティーチャーの業種は、コンビニエンスストア、介護施設、農業、ガス会社、教育、芸術関係などの多岐に渡り、地域の様々な事業所に協力していただいている。様々な分野から実際に働いている人の生の声を聴くことにより、児童・生徒たちが働くことを意識し、職業について考える良いきっかけとなっている。」

「授業支援（剣道）～北区学校支援地域本部（地域学校協働本部）～」  
 北区立王子桜中学校

保健体育における武道の指導について、スクールコーディネーターが地域の有段者の方の支援を得て、専門性の高い授業が実現しています。

Point & Idea

2年間の活動の系統性を重視し、10月に1、2年生の女子を、11月に1、2年生の男子と支援を仰ぎ、それぞれ10時間程度のカリキュラムで、生徒は武道の精神を深く学ぶことができています。支援者からの教えである礼法を重視し、武道から学んだことを学校生活全体に生かすことを意識して、教員は指導しています。



地域の有段者による剣道授業支援

Voice

「専門性の高い武道の指導は、保健体育科の教員としても悩ましい単元の一つである。しかし、支援者が経験者だからこそ指導できることが多々あり、何よりも安全管理の徹底がなされることが非常に大きい。また、生徒も支援者から直接指導していただけることに、新鮮さを感じ、学習に対する興味や好奇心も高まっており、より意欲的に学んでいる姿を見ることができている。保健体育科の教員としても、毎時間研修を受講しているような教員自身の学びの場ともなっている。」

教育活動の充実（教育課程）

「地域の伝統文化 ～多摩中学校地域学校協働本部～」

多摩市立多摩中学校

「地域めぐり(1年生)」、「伝統文化継承会(2年生)」と、本部が教員と密に連絡をとりつつ、地域に学ぶ取組を具体化させています。

Point & idea

生徒が班ごとにコースを決めて、学校の周辺地域を中心に市内の史跡や文化遺産をめぐる「地域めぐり(1年生)」では、地域の歴史や伝統行事について、地域で実際に活動している方から説明を聞きます。



「地域めぐり」神社の歴史を学ぶ



「地域めぐり」史跡の説明を聞く

着付け、茶道、華道、畳づくりなど、12コースの「伝統文化継承」講座では、地域に在住する日本の伝統・文化に造詣の深い講師を招きます。これらの地域人材や運営に携わるボランティアを地域学校協働活動推進員が中心となって調整しています。



「伝統文化継承会」着付け



「伝統文化継承会」貝合わせ

Voice

「伝統文化継承会等の開催に当たり、地域や関係団体等からの講師情報の収集、講師との連絡・調整、講師の接待(おもてなし)など、地域学校協働本部でやっていただき、教員の勤務軽減を図ることができた。」

「地域学校協働本部の規約が整備され、事務局を設置し、また、多摩中学校の管理職、教員と緊密に意思疎通を図っているため、活動の方向性がぶれず、継続的で系統的な活動となっている。協働活動事業を単年度のイベントではなく、中・長期的に学校の教育活動に位置づけることで、多摩中学校の教育の充実に大きく寄与している。」



# 放課後等の学習支援

## 教員の負担を軽減しながら、学習支援が充実しています

従来、学校が行ってきた夏季休業日や放課後等の多様な教育活動や学習支援活動を、地域が担うことで教員の負担軽減と活動の充実につながっています。

### 学習支援の充実

練馬区・調布市

#### 「サマースクール ～大泉第六小学校地域学校協働本部～」

練馬区立大泉第六小学校

夏休み中に実施するサマースクールでは、学校担当者・外部講師・青少年委員・青少年リーダー等の複数の団体とのスムーズな連絡調整が課題でした。

#### Point & Idea

外部団体による理科の体験授業、地域の農園に出向いて収穫体験等、夏休み中の体験をサマースクールとして実施しています。学校支援コーディネーターを中心としてそれぞれの団体が効果的に関わり合い、子供にとって充実した活動になるようにサマースクールのあり方を検討し、実施方法、実施内容を改善し、講師団体、地域、学校からの要望を受け、よりよい体験になるように連絡調整を行っています。

ゲストティーチャーの幅をより広げるために、学校支援コーディネーターが自ら様々な行事に参加し、出席されている方にお声がけなどもしています。

#### Voice

「学校支援コーディネーターが講師の方との連絡・調整を行うことで、より幅広い協力者の方にお声がけすることができ、児童の体験活動等の幅が広がった。」

「学校支援コーディネーターが講師の方との連絡・調整など活動までの諸準備を担うことで、スムーズに活動ができるようになり、関わる教員の人数が減り、準備に係る負担が減った。」

#### 「算数補習教室 ～北ノ台小学校 地域学校協働本部～」

調布市立北ノ台小学校

以前は放課後補習教室の企画・運営は少人数担当教員が準備・実施を行い、担任が順に指導に当たっていたが、その人数には制約があり、参加する児童にも限りがありました。

#### Point & Idea

平成30年度の北ノ台小学校地域学校協働本部発足当初から、補習教室の指導支援の依頼があったため、以前から健全育成活動・自治会等で関わりのあった地域住民や元教職経験者、卒業生の保護者に声をかけるなどして学習支援員として協力してもらっています。2年生・3年生合わせて約25名の児童に対して、担当教員以外に通常6名の学習支援員を配置することで、その都度丸付けや間違いの説明、一緒に考えるなどの個別対応ができるようになりました。

#### Voice

「普段の授業では手が回らないこともあるが、補習教室で丁寧に指導してくれるので、その子達の自信につながっている。今日は5枚できた!7枚できた!と担任にも報告があり、児童が楽しそうに参加している。」

「数年前は担任が主に対応していたが、負担が軽減されて助かった。」



「学習支援 ～第七中学校 地域学校協働本部～」

調布市立第七中学校

学期毎に職員アンケートを実施し、月1回学校との打合せを実施するなど、本部としての学校ニーズの的確な把握に努めています。

Point & idea

地域学校協働本部主催の活動には、「定期考査前の自習教室の開催」や「おもしろ実験講座の開催」があります。

コーディネーターが近隣大学の教職課程支援室と連携し、学習支援員の確保に努め、支援活動を円滑に行うため学習支援員と密に連絡を取るなど、調整全般を担っています。



定期考査前の自習教室

Voice

「定期考査前の自習教室では、1日あたり20人程度の生徒が参加しており、本教室は校内で恒例になりつつある。職員からも「生徒の学習意欲が向上しているようだ」「学習時間を自分で作れない生徒にとって自習教室が有効である」との声が寄せられており、本教室開催の成果を感じている。」



おもしろ実験講座

「漢字検定・算数検定 ～日野市立仲田小学校 学校支援地域本部～」

日野市立仲田小学校

学校が行っていた漢字検定・算数検定を、現在は本部が執り行っています。

Point & idea

本部として、学校ホームページによるボランティア募集の掲載し、地域に広く情報発信しました。また、保護者やボランティア会員を通して、可能な範囲での活動でも参加できると、知人・友人にも紹介いただきながら人材の確保に努めています。

受検者の募集、監督員の募集、受検の申込、会場の設営、当日の運営をコーディネーターとボランティアで協力して行っています。

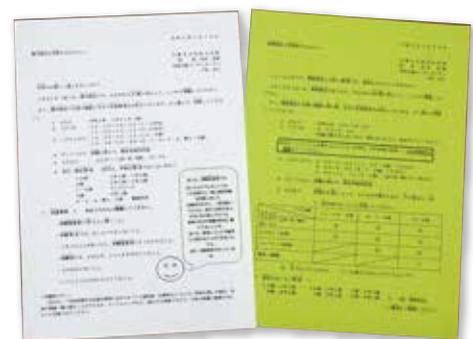
ボランティア向けにマニュアルを作ったことで役割が明確になり、当日は混乱することなく、見守りや運営に集中できました。



漢字検定

Voice

「漢字検定・算数検定は、教員の勤務時間や休日に実施してきたため、現在は教員の負担が減少し、働き方改革の一助となっている。」



検定試験案内



# コミュニティ・スクールとの連携

目指す目標・理念の共有が、学校・家庭・地域としての課題解決につながっています

コミュニティ・スクール(CS)とは、学校運営協議会を設置した学校を指します。

コーディネーターを学校運営協議会の委員とするなど、多様な学校支援を具体化する地域学校協働本部と、学校運営協議会の設置を連携することで、

学校の意向をより反映した教育活動の展開や学校・家庭・地域の連携協力が進んでいます。

地域・学校・家庭の連携

杉並区・福生市

## 「方南小学校支援本部 ～ビジョンを共有～」

杉並区立方南小学校

学校運営協議会の場を活用することで、諸活動の企画段階から学校・支援本部・地域間の相互理解と協力体制を確立させています。

Point & Idea

方南小学校の共有ビジョン「みんなで学び、共に生きる学校」の具現化に向けて、学校・支援本部・地域住民で「チーム方南」を形成し、常にベクトルを合わせて（共有）、共に知恵や力を出し合っ（共創）ています。これにより、一つの取組ではなく、①教育課程内支援活動（学校の運営計画の円滑な遂行を多彩な人材で支援）、②教育課程外支援活動（校内生活環境の確保と整備）、③課外活動運営事業（地域住民と学校の協力を得た諸活動）が具体化し、学校を核とした「共に生きる子」「よりよく生きる子」を育む地域学校協働の輪が広がっています。

Voice

- 「近年は、学校の「共有ビジョン」（学力向上を核に教育活動を進行中）の具現化のために、放課後補習、土曜日算数サポート、長期休業中のパワーアップ教室などの取組など、学校とベクトル合わせを行いながら、同じ方向を向いて活動を進めていただいております、相乗効果が上がってきている。」
- 「授業支援により、教育活動が充実した。特に3年生の町たんけん、6年生の職場体験などは支援本部による、地域の方々に向けてのコーディネートなしでは成り立たない活動となっている。」

## 「七小学校支援地域組織(地域学校協働本部)

～CS主催「親子ふれあいイベント Dance&Music」～

福生市立福生第七小学校

令和元年度から福生第七小学校はコミュニティ・スクール指定校となりました。これを契機に、児童・保護者と地域の方が気軽に参加出来るイベントを企画しました。

Point & Idea

コミュニティ・スクール委員会が主催のイベントとして「親子ふれあいイベント Dance&Music」を計画し、学校公開日である土曜日の3・4校時に実施しました。コミュニティ・スクール委員である近隣の都立高校の校長先生の協力が得られ、全国レベルのダンス部と吹奏楽部のパフォーマンス披露と、ダンス部による児童や保護者、地域の方へのワークショップを行うことができました。



ダンスのステップ練習中

Voice

- 「最初に高校生のパフォーマンスを観て、児童が高校生になるとこんなに凄い演奏やダンスが出来るようになると、新たな発見が出来た。」
- 「PTAとの連携など、既存の組織の活用をもっと進めると、教員の負担も少し減ると感じた。」

## 「榎原小学校学校運営協議会 ～コーディネーターとの一体的推進～」 八王子市立榎原小学校

学校コーディネーターが、学校運営協議会の委員（1名）や事務局スタッフ（2名）になり、協議会における内容を共有することで、学校の目指す方向に沿った支援活動を行い、新たな支援活動を提案しています。

### Point & Idea

もともと地域の方が見守りや図書室整備で関わり、PTAの活発な学校支援活動があり、それぞれのボランティアが学校とつながっていました。現在は、学校コーディネーターが全体のとりまとめをすることにより、横の連携も生まれています。

コミュニティ・スクールの目標「子供たちの幸せのために、人と人をつなぐ。そして、既にある榎原の素晴らしい豊かな資源（自然・人材）を活かし、多様な子供たちそれぞれが成長できるような学びの環境をつくる」ために、学校コーディネーターは、児童、教職員、保護者、地域の方のニーズに応えられるようにアンテナを張り、人材や体験を活動に結びつけるように動いています。



コマけん玉

### Voice

「学校運営協議会に学校コーディネーターが関わることで、副校長の業務（議事録作成、予算調整、連絡調整、お便り作成、お茶出し準備など）が軽減されている。特に、地域関係者やボランティアとの連絡調整を主体的に動いて円滑に行うため、学校側の大きな負担軽減につながり、スピード感ある協働活動の実現につながっている。学校コーディネーターが校長、副校長と常に顔を合わせての検討を重ねているため、足並みの揃った活動が実現できている。」

「保護者からは、『地域の人材を活用した体験的授業は、子供たちの学びを充実させるためにとても重要だと感じる。榎原小学校の地域運営学校としての取り組みからは、その成果が感じられる。今後も、地域運営学校として、学校と家庭と地域で、子供たちの充実した学びのために連携をしていきたい。』とのご意見が届いている。」

## 「スクールコミュニティ協議会 ～学校を核とした地域づくりの実践～」 府中市立府中第二中学校

今年度から設置したコミュニティ・スクールと、スクールコミュニティ協議会（地域学校協働活動）を推進した取組を実施しています。

### Point & Idea

地域人材を活用した国際交流の推進、地域行事を活用した「ふるさと府中」を愛する心を醸成する取組、地域スポーツを活用した「たくましい府中っ子」を育成する取組などを行っています。これらの取組を、それぞれの活動ごとにコーディネートする体制から、横の連携が図れるようになり、日常的に、地域住民が学校に来校するようになってきています。

### Voice

「青少年対策地区委員会、自治会、地域の学校（大学、高校、小学校、特別支援学校、幼稚園、保育園）などとの一層の連携が図られている。」

「一緒に取組む行事やボランティア活動が増えたことにより、地域と学校が協働する機会が増えて、学校の特色となっている。」

「子供たちのボランティアに対する意識が変容し、主体的に活動に参加するようになっている。」